

日本の学会誌掲載コンテンツの機関リポジトリ登録状況

清水 真理

機関リポジトリとは、学術機関で生産される研究・教育に関する成果物を蓄積・保存し、永続的に無料で公開するものをいう。さまざまな定義があるが、いずれも学術機関が構成員の生産したコンテンツを収集・管理し、インターネットを用いて外部へ発信するサービスであるという点が共通している。各学術機関によって機関リポジトリの構築が進められ、コンテンツ数や利用数も順調に増加しているが、現在どれほどの学会誌掲載コンテンツが機関リポジトリに登録されているのか、また登録されているコンテンツは量的に利用者の要求に応えうるものであるのかは明らかになっていない。

本研究では日本の学協会が刊行する学会誌に掲載されているコンテンツについて、現在の機関リポジトリへの登録状況を調査し、分析を行った。学術分野の区分は学会名鑑で用いられている30区分を使用し分類を行った。2011年6月7日までにSCPJデータベースに登録された学会誌2,894誌のうち、SCPJデータベースにISSNが記載されていた2,583誌に対し、2000年から2009年までの10年間に発行された学会誌に掲載されたコンテンツの機関リポジトリへの登録の有無を調査した。

言語別に見ると、2000年から2009年までにアーカイブが許可されている日本の学会誌に収録されたコンテンツの、機関リポジトリへの登録率は平均2.6%である。言語によって登録率に大きな差は見られないが、和英混在誌、英文誌、和文誌の順で機関リポジトリへの登録率は高い。学術分野別に見ると、機関リポジトリへの登録率は平均2.1%であり、基礎医学分野、機械工学分野、心理学・教育学分野、基礎生物学分野、薬学分野の順に機関リポジトリへの登録率は高く、法学分野、経営学分野、統合生物学分野、社会学分野、政治学分野の順に登録率は低い。また機関リポジトリ登録率上位10分野と下位10分野の比較から、アーカイブが許可されているコンテンツ数が多いほど機関リポジトリへの登録率が高くなる傾向があるといえる。

本研究はアーカイブが許可されている学会誌の機関リポジトリ登録状況という限定的な範囲での調査であったが、アーカイブが認められている学会誌掲載コンテンツであっても機関リポジトリへの登録率はわずか2.6%という結果となった。先行研究から特に論文の本文公開に対する需要が高いとされる心理学・教育学分野や医学分野においても登録率はそれぞれ3.0%、4.6%であり、情報学分野に至っては平均を下回る1.3%という結果となった。

利用者からの情報要求に応え社会に知識を還元するため、また機関リポジトリの有用性を社会に示し大学機関の説明責任を果たすためには、現状の登録率では十分とはいえない。利用者からの需要の高い分野を中心により多くのコンテンツを収集し、機関リポジトリの登録数を充足させ、利用に供する必要がある。

(指導教員 逸村裕)